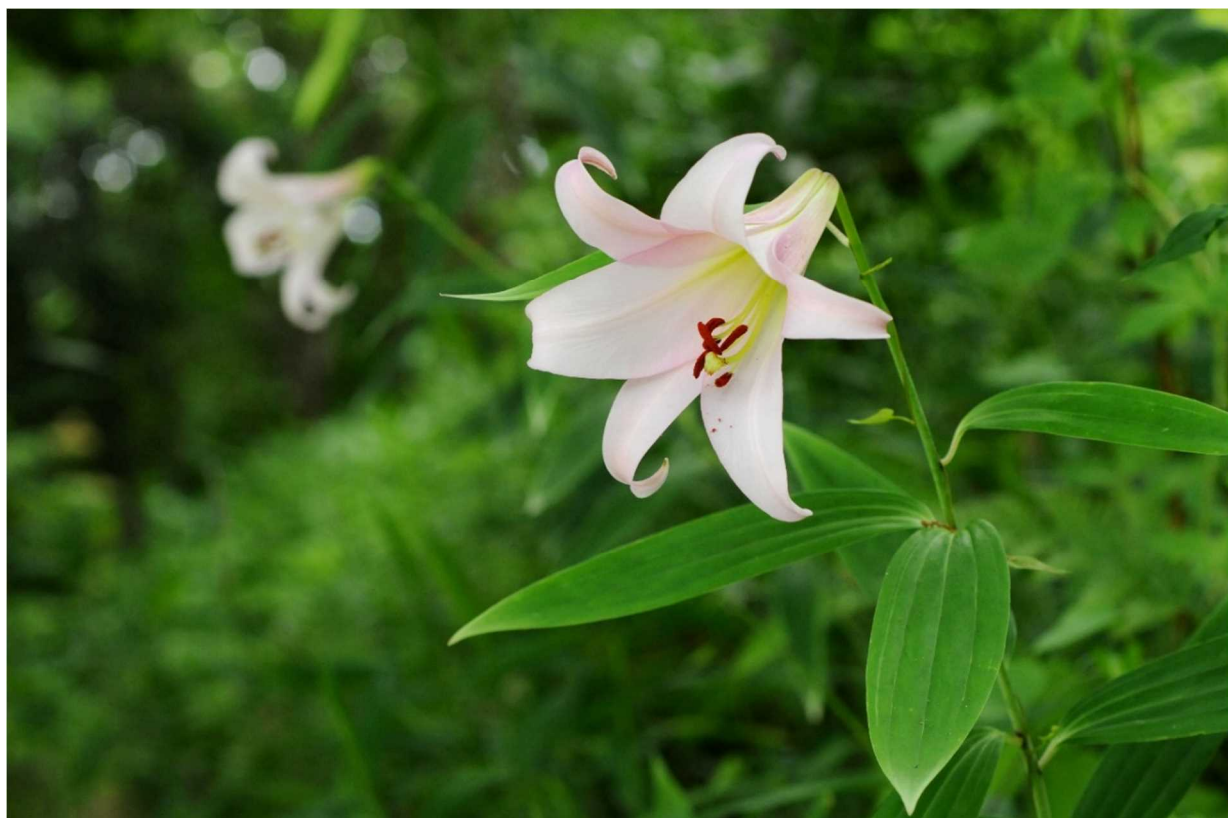


# 旭の里山・生きもの写真集

(岡山県美咲町旭地域)

## その3 夏の花





1.ドクダミ(ドクダミ科) 2014.06.11



2.フタリシズカ(センリョウ科) 2017.05.26



3.ミズオオバコ(トチカガミ科) 2015.09.04



4.シライトソウ(シュロソウ科) 2020.05.29



5.コオニユリ(ユリ科) 2020.07.19



6.ササユリ(ユリ科) 2012.06.13



7.キンラン(ラン科) 2014.05.08



8.ギンラン(ラン科) 2014.05.19



9.ネジバナ(ラン科) 2020.07.09



10.ヤブカンゾウ(ワスレグサ科) 2011.07.08



11.ノカンゾウ(ワスレグサ科) 2015.07.23



12.キツネノカミソリ(ヒガンバナ科) 2018.08.16



13.ツユクサ(ツユクサ科) 2015.09.04



14.センニンソウ(キンポウゲ科) 2020.08.05



15.ハンショウヅル(キンポウゲ科) 2017.05.29



16.カワラナデシコ(ナデシコ科) 2020.07.17



17.ユキノシタ(ユキノシタ科) 2016.05.22



18.ミソハギ(ミソハギ科) 2018.08.30



19.オトギリソウ(オトギリソウ科) 2020.08.10



20.ミヤコグサ(マメ科) 2019.05.24



21.コマツナギ(マメ科) 2015.07.03



22.ノアズキ(マメ科) 2014.09.05



23.キカラスウリ(ウリ科) 2015.08.05



24.オカトラノオ(サクラソウ科) 2020.06.28



25.ヌマトラノオ(サクラソウ科) 2013.07.21



26.イチヤクソウ(ツツジ科) 2015.06.17



27.ギンリョウソウ(ツツジ科) 2017.05.09



28.ヒルガオ(ヒルガオ科) 2015.06.23



29.イワタバコ(イワタバコ科) 2020.08.05



30.ウツボグサ(シソ科) 2013.07.08



31.タツナミノウ(シソ科) 2020.05.21



32.クルマバナ(シソ科) 2014.07.30



33.ハナウド(セリ科) 2014.06.05



34.オミナエシ(スイカズラ科) 2020.08.12



35.カノコソウ(スイカズラ科) 2020.05.14



36.キキョウ(キキョウ科) 2020.07.30



37.ホタルブクロ(キキョウ科) 2020.06.12



38.ミゾカクシ(キキョウ科) 2014.09.01



39.ノアザミ(キク科) 2016.05.28



40.ニガナ(キク科) 2015.05.17

## 「夏の花」 一口解説

1. **ドクダミ**[葎草]：半陰地に群生して独特の臭気。おなじみだけどとても変わった花。上部の薄黄色の部分にめしべとおしべだけの小さな花が集まっていて、花弁（はなびら）も萼（がく）もない。白い4枚の花弁のような部分は総苞片（そうほうへん）と呼ばれるもの。10の薬効があるとされ、十薬（じゅうやく）の名も。
2. **フタリシズカ**[二人静]：白いツブツブはおしべの一部で、めしべを包むような構造。花弁（はなびら）も萼（がく）もない。花の穂が2本のことが多いのでヒトリシズカという植物に対してフタリシズカ。
3. **ミズオオバコ**[水大葉子]：オオバコに似た茶色っぽい葉が水中にある（写真左方緑色はコナギの葉）。休耕田に水を張っていたら自然発生。土に長年埋まったままの種子（埋土種子）から芽生えたよう。県の絶滅危惧種。
4. **シライトソウ**[白糸草]：山地の林内などに生えるが少ない。株元に葉があり、花がつく軸（高さ15~40cm）にも細い葉がつく。花の軸は上部に多数の白い花がありブラシ状に見える。ユニークな花で、細く突き出した部分は花びらや萼（がく）に相当するもの。その付け根付近にごく短いおしべやめしべがある。
5. **コオニユリ**[小鬼百合]：山地よりのやや湿った法面などに生える。オニユリと異なり葉腋に珠芽（むかご）はできない。以前は普通に見られたのに最近激減している。
6. **ササユリ**[笹百合]：葉がササの葉に似ている。これも激減。イノシシに掘られ、人に掘られ…。発芽後花が咲くようになるまでに数年を要する。しかし少し環境整備してやれば意外にたくましい。
7. **キンラン**[金蘭]：高さ30~70cm。5~6月に明るい黄色の花をつける。最近激減しており、県の絶滅危惧種。菌を介して間接的に樹木の根から養分をもらっているとされる。したがって見つけて持ち帰っても育てることは不可能。見つけた幸運をその場で楽しみましょう。
8. **ギンラン**[銀蘭]：高さ10~25cm。キンラン同様に栄養を樹木・菌に依存しているという。キンランよりも稀で県の絶滅危惧種。この写真の撮影地には現在ソーラーパネルが並ぶ。
9. **ネジバナ**[捩花]：別名モジズリ[捩摺]。ネジレバナ、ネジリバナ、ネジレソウと呼ばれることも。右巻き・左巻き、まれに白花もある。捩摺（もじずり）はかつて奥羽地方で生産された、ねじれ模様の絹織物。
10. **ヤブカンゾウ**[藪萱草]：おしべ・めしべが花弁状に変化。道端などに普通で若葉は食用になる。
11. **ノカンゾウ**[野萱草]：湿った場所に生えるが少ない。葉が細い。
12. **キツネノカミソリ**[狐の剃刀]：葉が春に出て夏に枯れる。その後花の茎が伸びてくる。面白い生態の植物。
13. **ツユクサ**[露草]：別名ボウシバナ[帽子花]、ツキクサ[月草・着草]、アオバナ[青花]など。畑では厄介な草であるが青い花弁の花は美しい。黄色いおしべをよく見ると3種類の形がある。
14. **センニンソウ**[仙人草]：日当たりのよい所に生える木質のつる植物。茎や葉の汁でかぶれることがある。名は花後の実が生えた白く長い毛を仙人のヒゲに例えたとか。
15. **ハンショウヅル**[半鐘蔓]：林内や林縁に生える木質のつる植物。少ない。花の形をうまく表した名だけど、半鐘という言葉が今や半死半生？ 赤紫色の部分は萼（がく）で花弁はない。
16. **カワラナデシコ**[河原撫子]：日当たりのよい草地などに生える。秋の七草のひとつだが花は夏が盛り。局地的にしか見ないので保護したい植物。
17. **ユキノシタ**[雪の下]：湿った岩などに大群落を作る。上3個の花弁は小さくて下2個は長い。
18. **ミソハギ**[禊萩]：湿地に生えて群生する。かつては仏前に供える花で「盆花（ぼんばな）」と呼ばれ、半栽培のような状態だったらしい。今はあまり見かけない。秋には葉が紅葉してこれも美しい。
19. **オトギリソウ**[弟切草]：日当たりの良い場所に生え、高さ30~60cm。多年草なので毎年同じ場所で見られる。名はこの草の薬効をめぐる兄が弟を切ったという物騒な伝説から。
20. **ミヤコグサ**[都草]：別名エボシグサ。日当たりの良い場所に地をほうように広がる。刈られてしまうことが多いが、希少な蝶シルビアシジミ（当地では確認していないが）の食草なので保護したい。
21. **コマツナギ**[駒繫ぎ]：日当たりの良い斜面やあぜなどに多い。高さ40~80cm位。茎が駒（馬）を繋げるほど丈夫ということから。

- 22.ノアズキ[野小豆]：別名ヒメクス。中央の花弁がクルリとねじれた独特の形。ヤブツルアズキという植物がよく似ているが、ノアズキの豆の莢(さや)は扁平でヤブツルアズキは円筒形。
- 23.キカラスウリ[黄烏瓜]：縁が細かく裂けた独特の花。夜に開き朝にはしぼむ。雄株と雌株がある。写真は雄株に咲いた雄花。実が黄色い。赤い実のカラスウリはもう少し山地に生える。
- 24.オカラノオ[岡虎の尾]：日当たりの良い場所に。花が下から咲き上がり上部は垂れ下がる。
- 25.ヌマトラノオ[沼虎の尾]：湿地に群生する。前種のように垂れることはない。
- 26.イチヤクソウ[一葉草]：以前はイチヤクソウ科とされていたが最新の分類体系でツツジ科に。林内の薄暗いところに生える。薬草とされる。少ない。
- 27.ギンリョウソウ[銀竜草]：これも以前はイチヤクソウ科とされていた。林内の落ち葉が積もったような場所に生える。葉緑体がなく光合成能力を持たない。樹木が作った有機物を菌類経由で得て栄養としているという。
- 28.ヒルガオ[昼顔]：昼に咲くから昼顔。つる性の多年草で毎年同じ場所に生える。
- 29.イワタバコ[岩煙草]：水が滴るような日陰の岩壁に生え葉がタバコの葉に似ることから。群落を作るが局地的。生育地の環境を守る必要がある。園芸種のセントポーリアはこの仲間。
- 30.ウツボグサ[藪草]：花の集まった部分を藪(うつぼ・矢を入れる筒)に見立てた名。
- 31.タツナミノウ[立浪草]：わかりやすい名。日当たりの良い草地で小さいけれどよく目立つ。
- 32.クルマバナ[車花]：これもわかりやすい名。薄紅色の群生は美しい。
- 33.ハナウド[花独活]：小花の集団が盤状に開いて青空に映える。岡山県では若葉はウドナと呼ばれ食用に。
- 34.オミナエシ[女郎花]：秋の七草のひとつだが8月頃が盛り。花までに刈られてしまうことも多い。若い株も特徴があってよくわかるので刈らずに残したい。
- 35.カノコソウ[鹿の子草]：別名ハルオミナエシ。やや湿った道路際などで見られる。
- 36.キキョウ[桔梗]：秋の七草のひとつだが7~8月が盛り。これも減少しているので保護したい植物。
- 37.ホタルブクロ[螢袋]：この辺りでは白花が多い。まれに淡紅紫色。名は、子どもが螢を入れて遊んだからという説と、火垂(ほたる、提灯のこと)に似ているからという説がある。
- 38.ミゾカクシ[溝隠]：別名アゼムシロ。水田周辺の湿った場所に広がるのでどちらの名もわかりやすい。
- 39.ノアザミ[野薊]：5月~8月にかけて咲く。刈られてしまうことも多いが、アゲハチョウやタテハチョウの仲間が好む花なので、邪魔にならない場所なら刈らずに残してやりたい。
- 40.ニガナ[苦菜]：初夏に普通。葉や茎を傷つけると苦みのある乳液が出るが食用にもなるので苦菜。

## 里山雑記帳

### (1)里山事始め

将来は里山保全活動をしたいと漠然と思っていましたが、たまたま新聞記事で旧旭町の地を知りました。思い描く土地はいろいろあったのですが、現地を見てすぐに「ここ！」と決めました。20年ほど前のことです。この土地がどうして気に入ったのか、今から思えば周りの雑木林と棚田の美しさでしょうか。定住したのは9年前で、その時には美しかった棚田はかなりの部分が耕作放棄地になっていました。そこで、農業経験のない私たちには少々冒険でしたが、休耕田となっている田を1枚お借りしました。元々水が湧く湿田でしたので、水を溜めて「田んぼビオトープ」に。ミズカマキリやタイコウチなどの水生昆虫がすぐに現れました。今はいくつかの休耕田の管理者という立場になり、希少生物保護や景観植物栽培など、環境と景観を保全する棚田を目標として管理させていただいています。田んぼビオトープも4枚になりました。これから、この冊子シリーズに当地の里山の豊かさ、魅力、そして現状など綴っていきたいと思います。(Y)



## リーフレットその3 発刊にあたって

里山の生きものたちの姿を多くの人々に紹介し、そのような生きものたちが身近にいることの価値を感じていただきたいとの思いで、生きものたちの写真を集めたリーフレットシリーズの製作を行っています。「その1・美しい蝶たち」「その2・春の花」に続いて「その3・夏の花」を発刊します。その1・その2を見ていただいた何人かの方から、写真だけでなく解説的なものもほしい、というご意見をいただきました。今回は短いものですが入れさせていただきました。図鑑や本は参考にしていますが、専門用語などはできるだけ使わないようにしました。また、「里山雑記帳」というコーナーも付け加えました。ちょっとした話題や情報などを入れたいと思います。

夏の里山には野の花が溢れるようです。刈り取られてもすぐに持ち直して逞しく生きている植物がある一方で、環境の変化に伴って数を減らし、絶滅の危機に追い込まれているものも少なくありません。生きもの多様性を保全するためには環境の多様性を保全することが不可欠です。生産性とは違う価値観を持つこともまた大切ではないかと思えます。

掲載の写真は岡山県久米郡美咲町旭地域（旧旭町）で撮影したものに限定しています（撮影場所の詳細は非公開とさせていただきます）。紹介できた植物はごく一部に限られていますし、内容的に不十分な点も多いと思います。どうぞご容赦ください。見ていただいた感想などをお寄せいただけるとありがたいです。（石原隆志）

### 旭の里山・生きもの写真集 その3 夏の花

2020年11月発行

発行責任者：石原隆志（岡山県自然保護推進員）、石原八束（同）

連絡先：hoonoki@mx32.tiki.ne.jp HP: <http://hoonoki-koubou.jp> 「岡山中北自然観察誌」

協力：岡山県自然保護センター、旭の自然を守る会

表紙写真：ササユリ（ユリ科） 2013.06.10 撮影

裏表紙写真：ミソハギ（ミソハギ科） 2018.08.30 撮影

※このリーフレットは、公益信託タカラ・ハーモニストファンド令和2年度活動助成を受けて作成しました。

※植物の和名と分類は「山溪ハンディ図鑑1 増補改訂新版・野に咲く花」、「同2 増補改訂新版・山に咲く花」に従いました。

